

朱い実通信

動物園教育～環境教育めぐり

動物園教育の『これまで』と『これから』

————— Vol.9 2021年3月7日

動物園教育・環境教育の研究を行う、松本朱実（博士（教育学）・ライター）です。  
学習者の主体的な学びを支援する教育の取り組みを紹介します！

啓蟄を過ぎ、生き物たちの振る舞いに春の喜びを感じます。皆さん、いかがお過ごしでしょうか？2021年になって初の発行となります。今年に入り、たて続けに教育や博物館関連の学会大会、研究大会に参加しました。オンラインを活用したノウハウや、この状況下での議論の内容が参考になりました。今回は、動物園教育の『これまで』をふりかえり、『これから』を展望する視点で、話題を少し紹介します。

目次

- 01：めぐり合い ～\*身近な自然観察のつながり～\*
- 02：動物園教育・環境教育レポート  
～\*動物園教育のこれまでとこれから～ZOO 教研ウェブ大会を通じて～\*
- 03：学習論 ～\*世界動物園水族館保全教育戦略の視点～予告～\*
- 04：朱い実企画 ～\*わくわく構想あれこれ～\*
- 05：木になる言葉

- 
- 01：めぐり合い ～\*身近な自然観察のつながり～\*

—————

昨日（3月6日）、わかやま生き物クラブの観察会を開催しました。地元の図書館との連携企画第3弾でした。新型コロナウイルス感染予防の対策をとり何とか実現できました。よかったです！図書館で受付開始して1週間以内に定員がいっぱいに。うれしかったことは、2年前に参加してくれた子どもたちが複数人、リピ

ーターとして申し込んでくれたこと。保護者の方も子どもたちと一緒に自然を楽しんでおられたこと。動物や自然に詳しい知人たちが支援に来てくださったことも感謝です。「ゼロから1」をつくる活動は資金や労力を要しますが、わかやま生き物クラブは、人的ネットワークを駆使して、地域に今ある「1」をつなぐ方法で取り組んでいます。趣旨を共有する人々が自主的に集い、それぞれの専門性や役割を發揮しながら、市民の皆さんと一緒に地域の自然の資源を掘り起こし、記録していくことを目指しています。参加した子どもたちが、興味をもった生き物を自主的に継続的に調べていって、今度は子どもたちが教える側になって、地域の人に伝えてくれたら素敵だろうな。全国の図書館における着目する活動事例として、文部科学省が下記サイトで紹介してくださいました！

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/tosho/mext\\_01041.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/mext_01041.html)

[https://www.mext.go.jp/content/000011124\\_050.pdf](https://www.mext.go.jp/content/000011124_050.pdf)

-----

■ 02：動物園教育・環境教育レポート～動物園教育のこれまでとこれから～ZOO 教研ウェブ大会を通じて～\*

-----

～\*第 61 回日本動物園水族館教育会ウェブ大会

2 月 6 日と 7 日に、ZOO 教研初の試みである、オンライン大会を開催しました。

<https://jzae.jp/kiroku/61-webevent/>

事前準備から事務局、運営・実行委員、業者の方と何度も協議を重ね、何とか無事盛況に終わることができました。お世話になった皆さん、そして参加、協力いただいた会員、学生の皆さん、本当にありがとうございました。

#### ♪ 基調講演

今回、オンラインだから実現できたのが、アメリカからの本田公夫さんの基調講演でした。昨年秋から進め方や内容などを検討して下さり、心から御礼申し上げます。基調講演を聞きたいと今大会に参加した人もおられ、また ZOO 教研発足当初から国内の動物園・水族館教育に関わり、牽引された方々のご参加もいただきました。本田公夫さんの基調講演タイトルは『教育部門が動物園・水族館の未来を支え、社会を変える－21 世紀の動物園・水族館の存在意義と教育の役割を考える－』でした。講演前半に、欧米豪などの動物園水族館の変遷や動向を、社会との関わりでお話いただき、保全や福祉に向

けては「ヒト」を対象とした教育が必要であると、その意義を示されました。そして後半では、国内の動物園水族館の教育の充実、変革に向けた視点を多岐に提示されました。例えば、利用者それぞれの意味づけに沿った内容の検討、人々の生活の豊かさへの貢献、そして「自然体験への門口」としての機能などです。川端裕人さんとの共著書「動物園から未来を変えるーニューヨーク・ブロンクス動物園の展示デザイナー」に書かれてあった本田さんのお考えを、直接お聞きすることができました。

<https://www.akishobo.com/book/detail.html?id=887>

基調講演は録画、編集して、ZOO 教研の会員の皆さん限定で公開しています！ 関心ある方はどうぞ参考にしてください。

<https://jzae.jp/>

なお講演の前後で、ZOOM 投票機能を用いた参加者アンケートを導入しました。事前アンケートの設問「国内の動物園水族館教育のイメージは？」に対して、「充実していない」と回答した人が半数以上ありました。しかし、事後アンケートの設問「これからのイメージ」では、「充実していく」と回答した人が 8 割以上いらっしゃいました。皆さんのモチベーションの高まりを感じました。講演をお聞きして、社会における動物園・水族館教育の意義を見つめなおし、可能性をいくらかでも見通せたのではないかと思います。現場では運営体制や新型コロナ感染状況下の制約など課題が山積していると思います。それでも何か自分（たち）にできることを考え、皆さんと情報を分かち合い変革に繋げていきたいです。

#### ♪ 自由企画「ふれあい考」

今回の ZOO 教研大会では、自由企画の時間が設けられ、私は動物との直接体験（ふれあい）を通じた教育の共同研究をおこなっている 3 園（野毛山動物園、天王寺動物園、豊橋総合動植物公園）の皆さんと自由企画を開催しました。テーマは「ふれあいを学びの視点で考える」。私の問題意識は、国内初の上野動物園子ども動物園設立時の理念や内容と関わらせて、今の状況を教育の視点で見つめなおしたい。皆さんと考え合い、ふれあいを通じた教育の質を高めていけたらという思いがありました。当日は、3 園の事例を報告した後、自由な座談会をおこないました。参加者からは、具体的な方法論（学校連携の方法や対話など）の質問や感想以外に、動物園の動物は管理下にある時点で対等でなくどう福祉や保全を教育するかという投げかけや、動物のストレスや学びを科学的に評価することが重要などの意見

が出ました。また水族館のタッチプールや学校での解剖実験などの話題も出ました。議論する時間が全然足りなかったのですが、多岐な観点からの皆さんの関心の高さが伺えました。個人的に感じたのは、やはり現場がしっかりビジョンや軸をもつこと。その指標をつくる上で、『これまで』の子ども動物園の歴史を学び、世界や社会の動向に目を向け、『これから』子どもたちが生きる未来に向けて、園館の教育目的やプログラムの目標を明確化させ、評価と合わせて計画を立てていくことが重要だと考えます。勉強会を少しずつ重ねていこうと思っています。

---

■ 03：学習論 ～\*世界動物園水族館保全教育戦略の視点～予告～\*

---

# WZACES

2020年に、IZEとWAZAが協働で世界動物園水族館保全教育戦略（Social Change for Conservation: The World Zoo and Aquarium Conservation Education Strategy）を示しました。  
<https://www.waza.org/priorities/community-conservation/the-waza-education-strategy/>

学習論と関わらせて、私の視点で着目した部分をこれから少しずつ取り上げていこうと思います。今日は予告編。次回までに以下の項目について、皆さんの方で、上記サイトの戦略内容に目を通していただけたら幸いです。

# 第2章 動物園・水族館での保全教育の目的は？

P.28に5つの目的が図示されています。この中で、皆さんはどの視点や内容に関心をもたれ、また自分の園館でどう応用できそうでしょうか？本通信終わりの連絡先アドレスに、ご意見など寄せていただければ幸いです。

---

■ 04：朱い実企画 ～\*わくわく構想いろいろ～\*

---

公私共にめまぐるしく動く中、わくわく楽しむ活動を常に描いて活力にしています。たとえば本をめぐる懇話会を企画したい。あの地域や園館に取材にいきたい。生き物クラブを今度はどこで？など。そして今年目標は本の執筆を進める！など。具体化したらまたお知らせしますね。

---

■ 05：木になる言葉

---

【学ぶのは「ほどほどに」する 途中まで学んだら、あとは自分の頭で考えます】

人間にとって教養とは何か 橋爪大三郎 SB新書 2021年

著者は「教養をなぜ身につけるのか」と問いかけ、「まず第1に自分のため。教養が身につけば自信がつき前向きになり楽しく学びを深められる。自分で結論にたどりつくことで、それが自分の考えになる」と記しました。

そして、「めいめいの人々が教養を磨き深めると、言論が活発になり政治の質もよくなり、民主主義がほんものに近づく」と述べています。

みんなで考え、学び合い、意見を活発化させる。今のこの状況下に求められる教養を、あらゆる場面で全ての人が等しく深められますように。

---

♪最後までお読み頂きありがとうございました。

今後は1回のボリュームを軽くして頻繁な発行をと思っています。

どうぞお気軽に感想や情報などお寄せください。

バックナンバーは下記サイトからご参照ください♪

<https://www.zoopocket.com/blank-8>

☆バックナンバー

vol.1 子どもが主役！盛岡市動物公園

ID161374006 2019年3月12日発行

vol.2 対話を通じたふれあい 大阪市天王寺動物園

ID161407446 2019年3月26日発行

vol.3 保全に向けた自分ごとメッセージ 福山市立動物園

ID161531862 2019年5月20日発行

vol.4 SDGsとの関わり ズーラシアの環境教育企画

ID161784805 2019年9月20日発行

vol.5 子どもの気づきを促すサマースクール のんほいパーク  
ID162075849 2020年2月19日発行

vol.6 特集 スマスイ 研究と教育を核に  
ID0001685247 2020年3月15日発行

vol.7 共同研究の進捗レポート  
ID0001685247 2020年7月15日発行

vol.8 新型コロナに対応させた動物園教育  
ID0001685247 2020年11月23日発行

—————  
メールマガジン「朱い実通信 動物園教育～環境教育めぐり」

☆発行責任者：松本朱実  
☆公式サイト：<http://www.zoopocket.com/>  
☆問い合わせ：[akemims0714@gmail.com](mailto:akemims0714@gmail.com)  
☆登録・解除：<http://www.mag2.com/m/0001685247.html>

※本メルマガ内容の著作権は著者（松本朱実）に帰属します。  
本文を引用・転載・複製配布される場合は、出典を必ず明記してください。著者にご一報いただければ幸いです。  
皆さんの活動に、どうぞご活用ください。